

# Prospective evaluation of common hepatic duct histopathology at the time of choledochal cyst excision ranging from children to adults

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 二階, 公貴 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002813">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002813</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2526 号

Morphologic and Immunohistochemical features of the anastomotic regions in choledochal cyst cases

胆道拡張症における総肝管吻合部での病理学的評価・胆管癌発生リスクの検討

二階 公貴 (にかい こうき)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

胆道拡張症 (CC) は膵・胆管合流異常 (PBM) を伴う先天性疾患であり、膵液・胆汁混和物の暴露により胆管炎や膵炎、また胆道癌を発症する可能性がある。現在の CC の根治術は、完全嚢腫切除と総肝管空腸吻合が一般的であり、術後合併症は吻合部狭窄や胆管結石、胆管炎、胆管癌が報告されている。従来は、これら合併症と胆嚢、拡張胆管の病理組織像との相関を検討されてきたが、総肝管との相関を検討した報告はない。本研究は、小児、成人 CC 症例を対象とし、CC の根治術の吻合に用いられる総肝管の病理組織像を前向きに検討した研究である

2018 - 2021 年の期間に根治術を施行した CC 32 症例 (成人 9 例, 小児 23 例) を対象とした。検体は吻合部となる総肝管に接した遠位側総肝管より採取した。得られた総肝管の①粘膜上皮形態 (HE 染色) ②慢性炎症の程度 (Nrf2 免疫染色) ③過形成・細胞増殖能 (Ki-67 免疫染色) ④前癌病変の有無 (S100P 免疫染色) ⑤, ⑥発癌のリスクの評価 (p53, CA19-9 免疫染色) ⑦線維化の程度 (Masson's Trichrome [MT] 染色) と患者因子 (術時年齢、症状、CC 病型: 嚢腫型・紡錘型、術式) との関連性を検討した。

対象 32 症例の内、平均手術時年齢 15.3 歳 (0.3-74 歳)。小児例 (<16 歳) は 23 症例、男: 女=7:25、有症状: 無症状=26:6、嚢腫型: 紡錘型=19:13。成人症例で 1 例、手術時に胆嚢癌を認めた。総肝管の粘膜上皮残存率 (0-90%: 中央値=20%) の上昇と、術時年齢 (0.3-74 歳: 平均値=15.3 歳) の増加との間に有意な正相関を示した ( $r^2=0.22$ ,  $p=0.007$ )。粘膜上皮残存率とその他の因子 (症状、CC 病型、術式) との間には有意差を認めなかった。免疫染色に関しては、Nrf2 と Ki-67 で陽性症例を各々 6 例認めたが、双方とも、小児と成人の間で有意差を認めなかった。病型では、Nrf2 で有意差を認めなかった一方、Ki-67 では嚢腫型に陽性傾向が強かった (26% vs 0%:  $P=0.07$ )。MT 染色は、術時年齢と逆相関の傾向を認めた一方で、Nrf2 と正相関の傾向を示した。

今回の前向き研究で、CC 根治術の吻合部総肝管は、興味深いことに予想に反し、罹患期間の短い小児で成人よりも粘膜上皮残存率が低く、慢性炎症・線維化の程度も成人と同様であることが初めて示唆された。